

1 研究主題

小規模校で児童を変容させるための集合指導はどうあるべきか
～集団活動を通して自己を高め連帯感を育てる～

2 主題設定の理由

以前より過疎化現象が落ち着いてきているとはいえ、児童数は横ばいの状態である。通常の集団での学習が、確立できない状態にかわりはない。四半世紀続いてきたはまなす学校での集合学習は今年度で浜猿払小学校が閉校するため、次年度の体制確立を急いでいるところである。

保護者より求められている、小集団では育ちにくい応用力やコミュニケーション能力の向上に機能を果たしてきた。今後も、続けていく意向である。

古くは、猿払小学校・浜猿払小学校の学校行事の合同実施を契機に芦野小学校に呼びかけがあり、学校代表による準備会が持たれた。そして、3校での集合指導を導入することにより、学校経営や学級経営・学習指導に役立つとの見通しのもとに、昭和53年度より表記の研究主題を掲げ、集合指導の実践研究に取り組むことにした。

平成12年度を最後に猿払小学校が廃校になり、平成13年度は2校で、そして、平成14年度からは新たに浅茅野小学校を仲間に加え、3校体制を維持してきた。次年度より、浅茅野小学校・芦野小学校2校でも「人間性豊かな体験の場」「力をつけ、磨きあえる学習の場」であることを確かめ合い、一層取り組みを推進したい。

3 全道へき地・複式教育研究連盟 第9次長期5か年研究推進計画との関連【分野】

〈学習指導の深化・充実〉

地域に根ざした、主体的・創造的な学び合いにより「確かな学力」を育てる学習指導の創造

【課題】

〈課題7〉 学ぶ意欲を高める指導方法の改善・充実

(1) へき地・複式教育の特性を生かした指導方法

(3) 学習効果を高める個別化・集団化などの指導方法

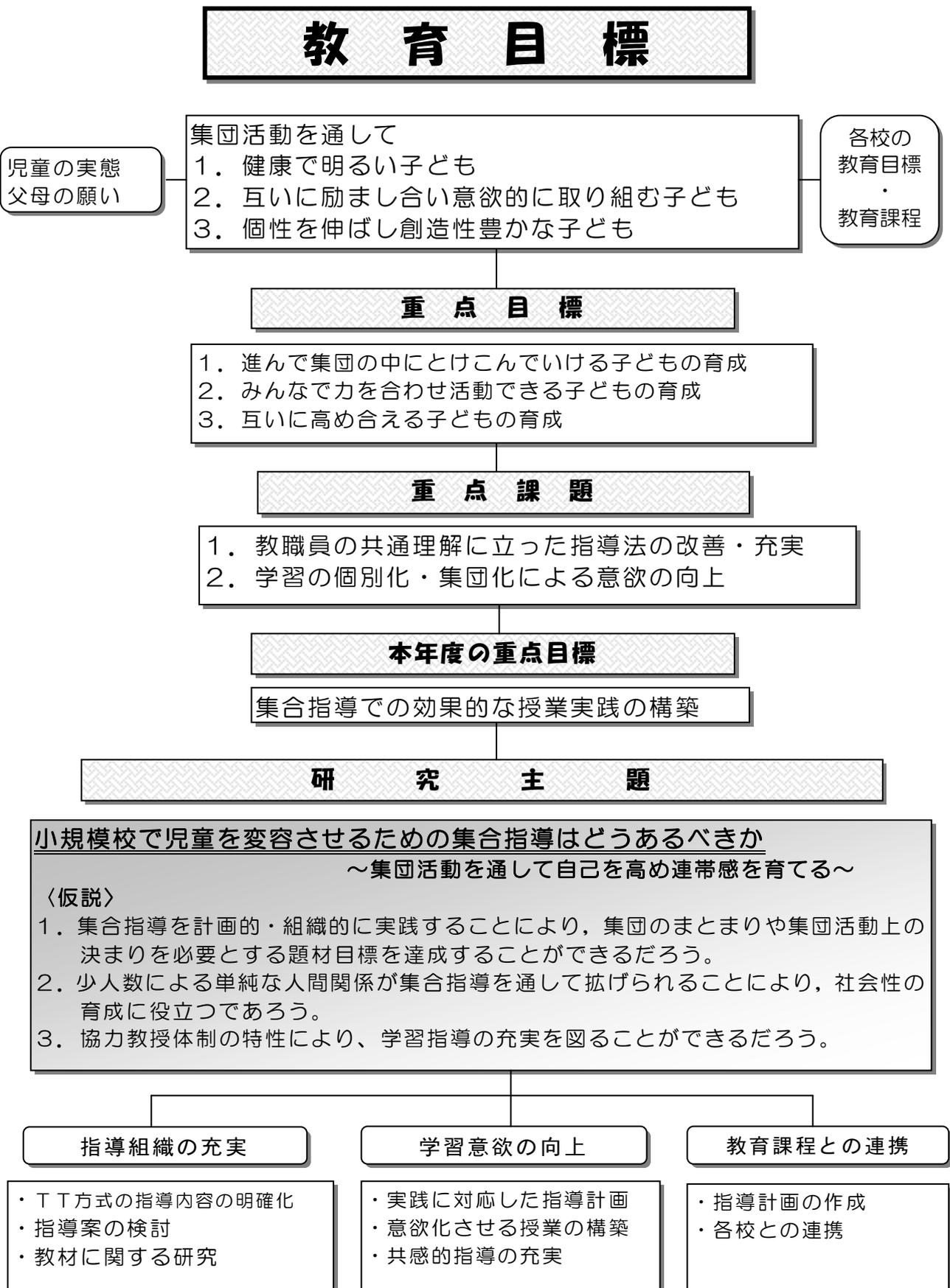
【はまなす3校の研究】

〈課題7〉 (1) →集合学習における協力教授体制の明確化と指導法の改善・充実の推進
(指導組織の充実)

(3) →①より広げられた集団の中で、自分の思いや考えを進んで伝え合いながら、学ぶ楽しさを味わう様な集合学習の推進。(学習意欲の向上)

②3校での協同的教育活動の推進(教育課程との連携)

4 研究の構造図



5 研究の仮説

- (1) 集合指導を計画的・組織的に実践することにより、集団のまとまりや集団活動上の決まりを必要とする題材目標を達成することができるだろう。
- (2) 少人数による単純な人間関係が集合指導を通して抜けられることにより、社会性の育成に役立つであろう。
- (3) 協力教授体制の特性により、学習指導の充実を図ることができるだろう。

6 研究実践計画（具体化の観点）

(1) 指導組織の改善・充実

- ① T T方式の指導内容の明確化
- ② 指導案の検討
- ③ 実践記録の累積
- ④ 教材に対する研究

(2) 学習意欲の向上

- ① 実践に対応した指導計画（年間指導計画）
- ② 意欲化させる授業の充実（協力し合う，互いに高め合う）
- ③ 共感的指導の充実（個人の存在価値の明確化，みんなが認め合い励まし合う）

(3) 各学校の教育課程との連携

- ① 指導計画（内容）が各校の計画との連携がはかれる。
- ② 指導計画達成

春に行う「はまなす開校式」では、全員で合唱を行います。たくさんの仲間と一緒に歌うことも集合学習の醍醐味です。



7 これまでの実践上の主な到達点

(1) 教育目標達成のための構造化

はまなす学校の目標を達成するために、「集合指導の全体構造」と「目標達成構造図」を明らかにして、重点目標と課題、その解決策の結びつきを明確にし、全教師が共通理解を立って向かっていく方向性を明らかにした。

(2) 指導体制のよりよい充実化

1979(昭和54)年度までは、音楽・体育の指導にあたっては、低学年・高学年に分かれて指導してきた。しかし、一人一人をより的確に把握する個別指導の徹底化を図る等の点から、教師全員で指導にあたることにした。それぞれの指導分担を明確にする中で、責任ある「チーフを中心としたT T方式」指導を行うという形をとるようになった。

1993(平成5)年度からは、部会構成を低学年・中学年・高学年・行事指導の4部会として、学年部会の中で音楽・体育を指導するようになった。



3校で行う「はまなすマラソン大会」は、他校の友達と一緒に走ることで、お互いに競い合い、たたえ合う気持ちを育てることをねらいとしています。

1999(平成11)年度からは、今後、児童数の減少により、教師数の減少が予想されることから、部会構成を低学年・中学年・高学年の3部会として指導するようになった。これにより行事指導部で行っていた内容については、事務局で扱うようにした。現在は、3校での業務分担など、一カ所に負担がかわらないようにし、教師全員が積極的に運営に携われる体制になるようにしながらも、より目標に向かって児童が高められるように、創意工夫が求められるようにしていきたい。

(3) 常に3校の児童の実態を見つめ、より効果のある教育課程づくり

2002(平成14)年度には、教員の大幅な異動があり、メンバーが新しくなった。そこで、過去にあった教育課程を基本に、より効果のある授業や行事となるように教育課程の内容や指導体制を改善、工夫してきた。例えば、内容によって2学年ごとの3ブロック体制(水泳など)、3学年ごとの2ブロック体制(体育)を使い分けたり、通常の1日のように学習したり、遊んだり、協力し合ったりできるように1日はまなす学校を実施してきた。

今後も、児童数や教員数の推移や、猿払村内における学校の情勢は変わっていくであろう。しかし、このはまなす学校の意義をおさえ、教育課程を編成することは常に行われていくべきである。



年2回実施する「一日はまなす学校」では、低・中・高学年の3ブロックに分かれて学習を行い、3校の教員が協力して授業をします

8 今後の課題として考えられるもの

目標に向かって一人一人の子どもをよりの確捉え、充実した授業にするために全教師が取り組んできた。今後、TT方式による効果的な指導法、さらには教材の選定及び内容等について、徹底した研修が必要であろう。児童の話し合いの場の確保や個に応じた指導、集団行動の訓練等、今後十分配慮されなければならぬ。

- ①「子どものために」という、教師の意欲と情熱のもとに生まれてきた指導であること。
- ②「これが絶対」というものはないのだ、という心構えをもつこと。
- ③実践してきた内容をお互いに検証し合い、よりよい集合指導のあり方を求めるものだという事。

以上の基本的三点を常におさえながら、実践を積み重ねることを確認し合い、3校で常に前進し続けていけるようにしたい。

今後も、児童数の減少や市町村合併問題など、厳しい情勢はあるが、現状に満足せず、「今いる子どもたちのために」、より教育的意義の深い集合学習になるように未来を見つめ、教師自らが夢を持ち続けられていけるようにしたい。

